



## ■ゲスト■

### 株式会社みるペット代表 取締役社長 浅沼直之氏

獣医療を起点とし、人とペットの間にある課題を解決するスタートアップスタジオ「QAL startups」。今回は新しく社長を務める、獣医師・起業家である久野知（QAL startups取締役社長）が獣医師業界の様々なキーパーソンとの対話を通じ、様々なビジネスヒントを提供していく連続対談シリーズ。

## みるペットとは

**久野：**よろしくおねがいします。浅沼さんは、臨床獣医師として動物病院業務に従事しながら、オンライン診療のサービスを立ち上げたと言いました。臨床をやりながらビジネスの業界に参入される方は多くないと思うのですが、どうしてこのような事業の立上を行うことになったのですか？

**浅沼：**私自身、小動物臨床を大学卒業後5年ほど行っていました。毎日、朝から晩まで動物病院で働かなかで、直接的な臨床の仕事（診察と処置、手術など）以外にもやらなければならない業務の割合が予想以上に多かった記憶があります。例えば、カルテ書きや飼い主様への郵送用のコメント書き、薬などの棚卸や発注、

掃除などです。臨床以外の業務効率化や仕事の役割分担をすることでもっと多くの動物の診察ができるのではないかと考えていました。また、飼い主様と診察室で話していると、なんでもっと早く相談してくれなかったのかなと思うことも多くありました。来院していただく前の段階で、いかに健康や病気に関する正確な情報を伝達するかが大事で、かつ動物病院との接点を得やすい環境を作ることが大事なのではと考えていました。

**久野：**現場にいるからこそその課題認識ですし、そう感じられている方は結構多いですね。ただ、そこから実際に事業化まで動ける方はそこまで多くないと思うのですが、どのようなことをされたんですか？

**浅沼：**その後、動物用医薬品会社に転職しました。さまざまな動物病院を訪問することで、業務効率化や飼い主様満足度向上、来院頻度向上などの多くの取り組みを知ることができました。

そんな中で、ヒトの医療でオンライン診療が事実上の解禁をされたということを知り、動物医療でも活かせるのではないかと、またその具体的な活用をイメージすることもできたため、みるペットの立ち上げを決意しました。現在は至るところでデジタル化やDXなどの言葉を聞くことが多くなりましたが、動物病院も例外ではなく、デジタルの力の活用が必要な時代になってきています。今も臨床を少し行っているのですが、獣医師としてオンライン診療の可能性を信じており、動物病院と飼い主様のメリットも大きいと思っています。いろいろな理由でネット自体に関してあまり良い印象を持っていない獣医師の方もいらっしゃると思いますが、オンライン診療は“診療”という獣医師にしかできないことをネットの力を活用して飼い主様や動物に提供することができるものです。いかに安全で適正な運用を行いながらオンライン診療を世の中に広く活用していただけるようにするかというのが現在の私の目標になります。

## オンライン診療の現状

**久野：**オンライン診療に関して、初診は対応できないとか聞きますが、実際に動物病院でのオンライン診療ではどのようなことが決められているのでしょうか？

**浅沼：**ここ数年は新型コロナウイルスの影響で、「オンライン診療」という言葉自体の認知度は上がっていると思います。また、ヒト医療では2018年に厚生労働省から「オンライン診療の適切な実施に関する指針」が発出され具体的な運用も明示されています。さらに、それまでは原則初診でのオンライン診療は禁止でしたが、コロナの影響で、初診での利用も可能となりました。

一方、動物医療では、農林水産省からの指針はまだ出されていません。つまり、具体的な運用方法の明示が無い状態です。

現在は、獣医師法18条と、それに関して過去に出された農林水産省局長通知を根拠に、初診でなければ飼い主からの聴取等を行うこと（電話やオンライン診療など）で、診察と見なし、診断と処方ができると解釈されています。

ただし、それ以外の明確な指針が無いのが現状ですので、実際の運用にはリスクが潜んでいるため、ヒトの指針を参考に運用するのが安全ではないかと考えております。出来るだけ早く農林水産省からオンライン診療に関するガイドラインが出ることを望んでいます。

## DX（デジタルトランスフォーメーション）とは

**久野：**オンライン診療自体はまだまだこれから決まることが多い領域なのですね。ただ、オンラインというとDXなどの言葉もつい使いたくなってしまっていますが、正直違いが分からない為、教えて頂けますでしょうか。

**浅沼：**DXとは、「デジタル技術の活用によってビジネスモデルを変革し、新たなデジタル時代での自身の競争力を高めていくこと」という意味合いで用いられています。一言でいうと「デジタル技術による変革」でしょうか。

似たような言葉で、デジタル化、IT化、デジタルイノベーション、デジタルイノベーションなどがあります。

デジタルイノベーションとは、全体の中の一部の効率化のためにデジタルツールを導入するなどの部分的なデジタル化を意味します。デジタルイノベーションとは、部分的ではなく、長期的な視野でプロセス全体を対象にデジタル化していく取り組みを意味します。全体の仕組みの構築、フローの自動化などがデジタルイノベーションになります。デジタルトランスフォーメーションとは、1企業を超えた枠組みで人々の生活をより良くするための社会や業界全体の変革を意味します。

## 動物病院のDX

**久野：**なかなか難しいですね。と、すると動物病院でデジタル化する！とあって、デジタル機器を導入するだけではDX化にはならないということですね。

**浅沼：**先ほどの話から当てはめていきますと、電子カルテ、LINEなどを使った院内情報共有、インカムの導入などは一部のデジタル化、つまりデジタルイノベーションになります。顧客管理システムや予約システム、事前問診システムなどの電子カルテへの連携は一連の流れのデジタル化の

デジタルイノベーションにあたると思います。デジタルトランスフォーメーションとは、例えば、電子カルテの情報を利用動物病院すべてで統合してビックデータとして活用することで新しいメリットを業界に与えるようなものになります。

範囲を病院単位に絞った例ですと、受付、診察、処方、発注などがすべてデジタル化されそれぞれのデータを基に最適化される、具体的には、予約枠の調整や、処方薬や日数の調整、在庫管理の最適化が行われ、経営効率化、顧客満足度向上などに繋がるものかと思います。

## 動物医療でのDXの現状とこれから

**久野：**それを踏まえると、現状の動物医療においてDX化とはどこまで進んでいるのでしょうか？

**浅沼：**動物医療におけるDXとは、「飼い主様・動物に対してのDX」と「動物医療現場に対してのDX」があります。

「飼い主様・動物に対してのDX」には、ウェアラブルデバイスがあります。デバイスが収集した様々な生体情報をもとにアラートを鳴らしたり診断や治療に用いたりできます。ペットのお薬手帳のようなものや動物病院とのコミュニケーションアプリもありますが、現状ではDX化の手前のデジタルイノベーションが多いです。

「動物医療現場に対してのDX」は、WEB予約や、事前問診、電子カルテ、顧客管理システム、オンライン診療などはそれぞれ単独ではデジタルイノベーションになります。

これらがすべて連動し、情報を蓄積することでAIによる診療補助などができるようになるとDX化といえるのではないのでしょうか。

今後、さまざまなデジタルツールやサービスが出てくると思われますが、まずはデジタルイノベーションが起こり

院内業務の各パーツがデジタルに置換されることが起こり、それによって病院単位での業務効率改善が行われると思います。その後、全国の病院データの集積が可能になった段階で獣医療のDX化が本格化していくと思っています。



浅沼 直之

獣医師。小動物臨床従事時に動物病院の立ち上げを複数院経験、動物用製薬会社へ転職。動物病院の効率化と利便性の向上を目指して、株式会社みるペットを設立。ペットのオンライン相談・診療システム「みるペット」を動物病院に提供しながら業務効率化を実現するためのデジタルツールなどを提案し、運営改善、開業時のサポートに従事。



久野 知

獣医師。小動物臨床医として勤務後、製薬会社での営業・新商品開発、動物病院の立ち上げ、社団法人の立ち上げを経験。エデュワードプレス社での事業開発を経てグループ会社として株式会社HIPPOS、株式会社エレファントピクチャーズ2社の立ち上げを行い、同代表取締役社長に就任。2020年に株式会社 QAL startups に参画しペット市場および動物医療市場への事業参入支援を行う。2021年より同社取締役社長に就任。

### 《 対談後記 》

動物病院における飼い主様と獣医師の間のやりとりの中で、デジタル化されたツールは増えてきましたが、本質的な部分は数十年変わっていません。飼い主様とペットの生活の質を向上するためにも、この不便を解消することが必要ですが、実際にオペレーションに入っている動物医療従事者や飼い主様からのイノベーションは非常に難しいのが現状です。

今回対談した浅沼先生は、動物病院での課題発見を基に、動物用医薬品会社にて数多くの動物病院を見ることで実際に課題を可視化し解決のための商品化までされている獣医師の方です。浅沼先生の取り組んでおられるオンライン診療という分野は、法規制や従来のオペレーションに立ち向かう必要があります。そのような中でも、商品・サービスを導入してもらうだけのデジタルイノベーションやデジタルイノベーションだけに捕らわれず、DXによる社会課題の解決にまでビジョンを持ってらっしゃいます。QAL startupsとして、これからの動物病院経営と運営におけるDX化に必要な情報を浅沼先生と一緒に届けていきたいと強く感じた対談でした。